教えて 学んで 楽しもう

学びのトレジャー

Vol.5　2024年2月9日

色を通して世界を見る？

静岡県袋井市立袋井南中学校
三浦 真由子 先生

　和菓子は、季節の自然や年中行事と密接に結びついた意匠が特徴の日本の伝統文化で、華やかな見た目と味と香り、黒文字で切った時の感触や菓銘も楽しめることから「五感の芸術」とも呼ばれています。

　和菓子をデザインし、樹脂粘土で表す授業は、生徒達から人気があります。「地元の良さを感じてもらえる和菓子」「外国人に日本の魅力をアピールする和菓子」「自分の誕生日の季節の魅力を表す和菓子」など、生徒の実態に応じて様々な課題を設定してきました。どの年も、生徒が自分の身の回りの自然をよく観察するようになったり、どんな色や形なら自分が感じている季節の良さを表現できるか試行錯誤したり、初めて触れる樹脂粘土の感触を楽しんだりと、題材にのめり込んでいきます。

　題材に取り組む中で特に注目するのが「色使い」です。生徒たちは、自分のイメージや季節の魅力が的確に表現されているか考え、混色や色の組み合わせにこだわります。資料集で「日本の伝統色」を見ると、彩度の低い色が多いことに気付きます。どの色からも、優しく柔らかい印象が伝わってきます。昔の人々が美しい自然を観察しながら発見した色の中には、日本の原風景が浮かび上がります。

　私は３年間、タイのバンコク日本人学校で勤務していましたが、タイには街中で見かける花飾りや新鮮なフルーツ、伝統衣裳など、鮮やかな色彩があふれています。ギラギラとした強い日差しに照らされた色が眩しく輝く様は、異国情緒を感じさせる風景でした。

　色の感じ方はもちろん人それぞれ。授業で色を扱う際には、その生徒なりの見方を尊重する配慮が必要です。その上で、その土地の自然や文化によって変化する色の見え方や色使いなどにも思いをめぐらせるのはとても楽しいです。

　生徒たちが広い世界に飛び出していったとき、どこかでこのことを思い出してくれたら、ほんの少し豊かな気持ちになれるのではないか、そんな日が来ることを願っています。

開隆堂